

## 「令和7年度第4回高知県多文化共生推進会議」議事要旨

日 時 : 令和8年3月27日(金) 14:30~15:15

場 所 : 高知会館3階「平安」

出席者数: 委員10名、オブザーバー2名(法務省出入国在留管理庁高松出入国在留管理局)

記者数: 1社(高知新聞社)

傍聴者数: 2名((公財)高知県国際交流協会、高知県中小企業団体中央会)

1 挨拶(県文化生活部部長)

2 報告事項

(1)「高知家・多文化共生推進プラン～ともいき社会を目指して～」案及びパブリックコメント等の意見について

(2) 令和8年度の主要な取組について

---

---

1 挨拶

(池上文化生活部部長)

2 報告事項

(1)「高知家・多文化共生推進プラン～ともいき社会を目指して～」案及びパブリックコメント等の意見について

※事務局より、資料1・資料2を用いて説明

【各委員からの質問及び意見】

(池委員)

11月の多文化共生月間について、今までは国際ふれあい広場があったが、その他のイベント等を考えているのか。

(国際交流課)

具体的なことは、まだ計画できていないが、月間を活用して、県内の現状を紹介したり、広報媒体を活用して、11月を強化月間としてしっかり広報していくことを考えている。

(池委員)

外国人や日本人が交流する場ということで、例えば、私の所属する日本語教育研究所では、年に1回交流会を開催しており、子どもと保護者が一緒にゲームなどをして、子ども同士や保護者同士の交流の場にもなっている。こういったイベントを国際ふれあい広場

で開催してもいいのではないかと思った。

(国際交流課)

必要な取組だと思うので、一緒に取り組んでいければと思う。

(市川委員)

地域コーディネーター制度の件で、私自身が地域コーディネーターをしているが、地域コーディネーターが選ばれる経緯や実際の活動が周りからよく分からないと思う。

実際の活動も活動時期が定まっておらず、教室などを見に行ってもらいたいといった依頼を受けて、関わっていく仕事なので、何でも屋さんのように、どう展開していくかもコーディネーター次第な部分があり、そういったところも不透明さの要因になっているように思った。

そこで、ホームページや広報誌で構わないので、地域コーディネーター制度も含めた県の取り組みを分かりやすく紹介できる広報ができると良いと思う。県民が見やすい広報の手段はどのようなものがあるのか。

(国際交流課)

県民に一番届きやすい媒体としては、「さんSUN高知」などの広報媒体等になる。県民に広く知っていただくということでは、これまでできていなかった部分があるので、情報公開できる範囲を確認しながら、ホームページで紹介する等、広報を考えていきたいと思う。

また、地域コーディネーターの方においては、地域のボランティア養成講座やスキルアップ研修など、計画的に実施していただいている取組もあるが、地域の課題や状況に応じてアドバイスをいただいたり、急なお願いをしているところがあると思う。取組として計画性が十分ではないところもあるかもしれないが、地域の現状を知っている有資格者として市川先生と今井先生に地域コーディネーターをお願いしているところである。

(山協会長)

パブリックコメントでの意見提出者の属性等は。意見提出のあった市町村はどこか。

(国際交流課)

パブリックコメントでご意見いただいた3名の属性としては、全員女性で、地域日本語教室でボランティアをされている方だった。市町村意見は、香南市、須崎市、宿毛市の3市から提出があった。

## (2) 令和8年度の主要な取組について

※事務局より、資料4・資料5を用いて説明

### 【各委員からの質問及び意見】

(古木委員)

企業にとっての多文化共生は、コミュニケーション支援と生活支援が中心になると思っているが、資料4の①から③は、企業からも聞かれる要望等とも重なっているため、企業にとってありがたい取組になると感じた。多文化交流サポーターという企業と地域の縁側的な存在は、まさに企業が必要としているので、ぜひ進めていただきたい。また、日本語教室がある地域では有機的な連携も考えてもらいながら、時には大学や留学生が多い学校とも有機的に交流を図りながら、発展させていただいたら、企業としては大変ありがたいと思う。

(国際交流課)

制度設計をしていく中で、事業者や学校からもご意見いただきながら考えていきたいと思う。

(中川委員)

資料4の①で意見照会を監理団体にも行ってもらえたらと思う。

(市川委員)

資料4の①でウェルカムパッケージの中身を作る時期はいつになるのか。

(国際交流課)

7月から8月のレイアウト作成のところで、ウェルカムパッケージに盛り込む内容の項目出しと内容を作る作業を行い、その後、ご意見いただいたうえで、レイアウトを修正して、12月以降に作り込んでいくことを想定している。

(文化生活部)

県が作るものは、市町村でこれだけは入れておいたほうがいだろうという項目をまずは整理をすることとしている。市町村が後で追加することは構わないので、最初に、盛り込む項目を固めるのが夏ぐらいまでになると想定している。

(山協会長)

項目ができた後に、実際に書き込むのはいつか。

(文化生活部)

12月からである。

(国際交流課)

県としては、全体的に必要なものを雛形として作成し、令和9年度以降に市町村にデータ提供して、さらに各市町村で加除修正してもらうことを想定している。ごみ出しルールなど、市町村ごとにルールが異なるところがあったり、コミュニティバスの乗り方など市町村によっては加えたいことがあるかもしれないので、市町村が自由に加除修正できる雛形を作っていくように考えている。

(池委員)

ウェルカムパッケージがイメージできなかつたので、検索したところ、他県等で既にあるのを見かけた。他県で既に作成されたものを参考にしながら作っていくのか。

(国際交流課)

他県等を参考にしながら、進めていくよう考えている。

(山協会長)

来年度も本会議を続けていくのであれば、行政だけで作るより、委員の意見を聞きながら作ってはどうか。

(国際交流課)

来年度は、本会議を2回開催したいと考えており、現時点では、第1回目を8月に開催することを想定しているので、レイアウトを策定するタイミングで、委員の皆様からのご意見をいただき、進めていく。